

第Ⅳ部門 古都・奈良における参道空間の把握

大阪工業大学工学部	学生会員	○大崎雄治
大阪工業大学工学部	非 会 員	古川大智
大阪工業大学工学部	正 会 員	吉川 眞
大阪工業大学工学部	正 会 員	田中一成

1. はじめに

現代まで歴史や文化が継承され都市空間が形成されてきたことにより、歴史を活かしたまちづくりが行なわれている。歴史を活かすには、地域の歴史や文化を知り、現代都市空間においてそれらの価値を評価し、良好な都市空間を形成していくことが重要である。しかしながら、近代化による都市構造の変遷と現代都市を取り巻く社会情勢などの影響を受けて、歴史的空間が形成されているため、歴史的資源と現代が入り組んだ空間が生じており、問題点が多く出てきている。したがって、歴史的資源と現代空間との対立と調和を図る空間を形成しなければならない。

2. 研究の目的と方法

わが国には、歴史的資源は数多く存在するが、なかでも寺社は、古くから人々に親しまれ、重要な歴史的資源として位置付けられている。多くの寺社には参詣するための参道が整備されており、寺社によって参道空間が形成されている。参道空間は、境内にある参道として認知されていることが多い。しかし、境外に広がりのある空間、また都市へと広がる空間もまた参道空間である。現代では、後者の参道空間の考え方が重要になっていることから、歴史的資源と現代空間との対立と調和を図る必要が考えられる。そこで本研究では、現代の都市空間における参道空間の把握を目的としている。

研究方法は、絵図や名所案内記などの史料をもとに、参道空間の歴史的変遷を把握する。そこで、地理空間情報システム（GIS : Geospatial Information System）を用い、現代空間上に、過去の情報を定位させ、空間の変化を捉える。次に、寺社と周辺名所の道路ネットワークに着目した圏域分析を行うことで、時代ごとの参道空間の把握を行っている。さらに、ビッグデータといわれる空間データから得られる人々の位置情報を用いて、参道空間を把握している。

3. 対象地の選定

寺社は、日本各地に点在し、どの範囲を参道と呼ぶのかは場所によって異なる。そこで、単に寺社の境内範囲を参道空間とするのではなく、境外でも寺社へ向かう道を参道空間と定義する。さらに参道から都市へと広がる空間や参道に形成された門前町に着目し、参道空間に特徴的である寺社の選定を行っている。それらから、東大寺、興福寺、春日大社の門前町である奈良町に着目している。奈良町には、東大寺、興福寺、春日大社それぞれの参道空間が形成されていると考えて、全域を対象とした（図-1）。また、この境界のことを江戸期では、奈良町と呼び、現代では、元興寺の旧境内地域がとくに、「ならまち」と呼ばれている。本研究では、「奈良町」を「ならまち」も含む旧市街地、「ならまち」を元興寺の旧境内地域と区別して記述している。

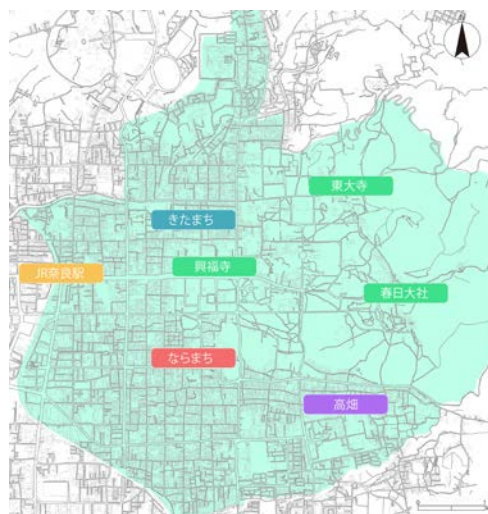


図-1 奈良町

Yuji OSAKI, Taichi FURUKAWA, Shin YOSHIKAWA and Kazunari TANAKA
sakiy522@gmail.com

4. 分析・把握

現代における参道空間は、さまざまな場所を巡り、また観光し、寺社へと向かうルートが参道空間となっている。そこで、道路ネットワークと寺社、ならびに名所に着目し、ネットワークを用いた圏域分析を行う。対象となる名所は、絵図・名所案内記、観光ガイドブックを活用し、記述されている名所を各時代毎に整理し、GIS上でプロットした。次に、名所を巡るルートを推定する。しかし、絵図・名所案内記には、巡るルートが記述された史料は数少ない。そのため、名所付近の道路は必ず通ると考えられるため、それらを通る最短距離を算出し、史料からルートの推定を行った。さらに、名所付近には参道空間が形成するため、各名所に到達圏の設定を行い、各時代の参道空間となり得る空間を抽出した(図-2)。江戸期では、寺社付近のみに参道空間が存在していた。時代が進むにつれ、参道空間が寺社から都市へと拡大しているのが見受けられる。さらに、それらの空間から道路ネットワークを抽出し、現代都市空間における参道空間の把握を行った(図-3)。その結果から、参道空間内にさまざまなルートが見られ、奈良町の参道空間は回遊性の高い空間が形成されていることがわかる。

くわえて、いわゆるビッグデータと呼ばれる空間データを用いることで、参道空間内で実際に使われているルートの把握を行う。使用するデータとして、SNSをもとに作成した擬似人流データと、Twitterから抽出された位置情報を活用する。Twitter APIで取得したデータには、建物内に存在している位置情報を持った空間データも含まれているため、近接する参道空間上に移動させる(図-4)。Twitterでは、駅、商店街、ならまちに多くのツイートが見受けられ、また、観光スポット付近でのツイートが密集している。これらのツイート位置は推定したルート上に多く、このルートが実際に利用されていることが確認できた。一方、春日大社の参道上にはあまりツイートがなく、本殿に入るとツイートが増えている。

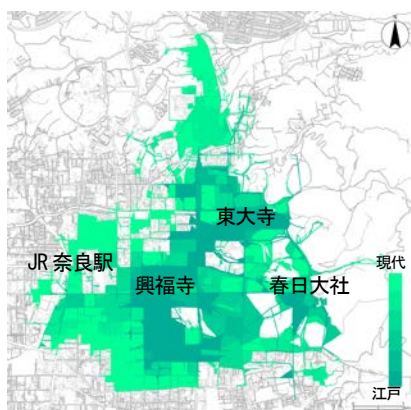


図-2 参道空間の変遷

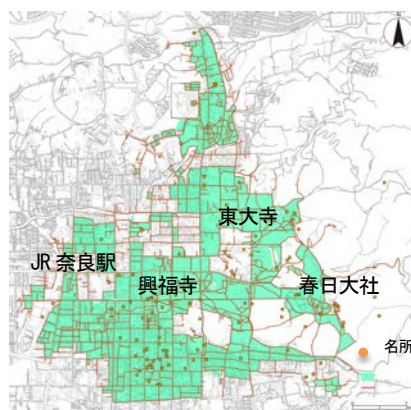
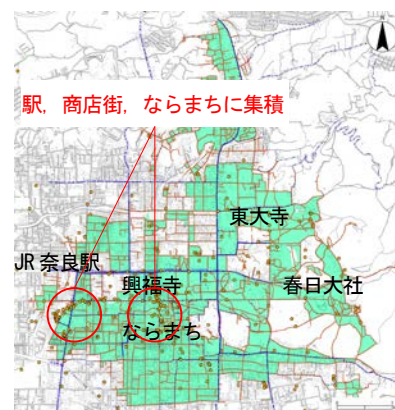


図-3 現代の参道空間

図-4 Twitter+参道空間
+擬似人流データ

5. おわりに

本研究では、ネットワークを用いた圏域分析から、名所が参道空間を形成していることが把握することができた。さらに、各時代毎の参道空間の変遷を把握すると、寺社に参道空間が密集しており、徐々に都市側へと拡大していることがわかる。それらの理由として、主に交通システムの発達と考えられ、駅から寺社を訪れる参詣者が増加していることが伺える。そのことから、鉄道駅を起点とし、寺社を終点とする参道空間が形成されている。また、駅空間が整備されることにより、駅付近に新たな観光スポットが出現していることが把握できた。したがって、現代都市空間における参道空間では、駅を中心として、回遊性が向上する参道空間が形成されていることが把握できた。

今後の課題として、過去から現在への景観の変遷を把握し、現代空間と対立と調和を図る空間を見出す。さら、参道空間は高い回遊性を持ち、寺社へ向かうまでさまざまなルートが考えられる。そのため、参道空間をルートごとに分析を行っていく。